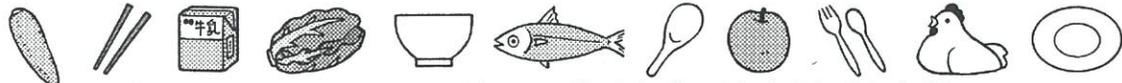


給食だより 1月

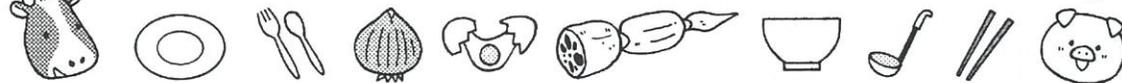
市川市立新井小学校

あけましておめでとうございます。新しい1年が始まりました。1月24日から30日は全国学校給食週間です。いつも食べている学校給食の始まりや意義、役割などについて考えて、みんなで話してみましよう。



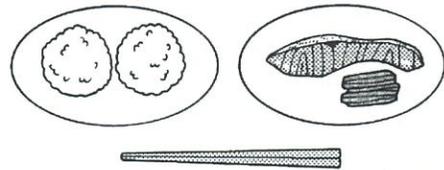
1月24日から30日は全国学校給食週間です

明治22(1889)年に始まった学校給食は、戦争により一時中断しましたが、アメリカのLARA(アジア救済公認団体)等の物資援助を受けて再開されました。昭和21(1946)年12月24日に給食用物資の贈呈式が行われ、この日を「学校給食感謝の日」と定め、その後、給食の意義や役割についての理解や関心を深める週間として、冬休みに重ならない1月24日から30日が「全国学校給食週間」になりました。



学校給食の始まり

学校給食は、明治22(1889)年、山形県の忠愛小学校で、家が貧しい子どもたちへ、無償で昼食を出したのが始まりとされています。当時の献立は塩さけ、おにぎり、漬物といわれます。それから全国各地に広まっていきました。



給食はおいしい教材!

給食はおいしい食事での体の成長を支えるだけでなく、みなさんが栄養素の知識や望ましい食生活や食事のマナーなどを身につけたり、行事食や郷土食を通して、地域の文化や伝統を学んだりすることができる教材でもあります。



保護者のみなさまへ

本年もよろしくお願いいたします。1月には全国学校給食週間があります。学校給食には子どもたちの心身の健康と成長を助け、正しい食の知識や食生活を身につけさせる役割があります。家族でお話しする時に、給食の思い出や好きだった献立などのことを話題にしてみてください。

「おはし名人になれたかな？」

3・4年生で「お魚食べ方コンテスト」に取り組みました!

11月10日(木)3年生、12月15日(木)4年生の各教室で、給食時間に「お魚食べ方コンテスト」を実施しました。これは、1・2年生で学習した「おはし名人になるう」の取り組みを活かして、頭、骨、尾がついたいわしの塩焼きを、正しいおはしの持ち方できれいに食べられるかどうかを見るコンテストです。昨年度までは3年生のみで実施していましたが、毎年子どもたちがとても意欲的に取り組んでいることから、今年度は4年生でも実施しました。

事前学習として、フェルトで作った教材を使い、栄養教諭から魚の食べ方について学びました。「難しい〜。」と言いながら、一生懸命練習していました。

そして迎えたコンテスト当日。子どもたちは、配膳が終わり目の前にいわしが置かれるやいなや、ひたすら、いわしを食べることに集中!!前日までにおうちで魚を焼いてもらい、練習してきたという子が何人もいました。いざ食べ始めるとみんな黙々と、とても真剣な表情で取り組んでくれました。上位3人を各クラスから選び、表彰状と、副賞として食べたお魚の写真をプレゼントしました。1年生から継続しておはしの指導に取り組んできましたが、子どもたちが、はしを正しく使うことの大切さやお魚を食べることへの興味を持つとともに「できなかったことが、できるようになった。」という達成感を得てくれたらうれしいです。

<p>フェルトで作った魚の人形を使い練習しました!</p>	<p>当日出たお魚。頭と尾がしっかりついた15センチ位のいわしの干物です。</p>	<p>一生懸命、お魚と格闘していました!</p>
<p>一生懸命食べたので、残菜もほとんどありません!</p>	<p>入賞した子どもたち、とってもうれしそうでした!</p>	<p>入賞者の食べたいわしです。とてもきれい!</p>